山口市文学碑巡り No10(犬鳴の滝―山頭火句碑)

再び仁保地区からの紹介です。県道 123 号線、道の駅「仁保の郷」から仁保川を上流に向かって進み右手に**犬鳴公園**の道標を見つけると、その手前に西に向かって細い道が延びその先に集会所があります。集会所前の広場に車を停めて荒れた山道を進むと、山頭火の句碑が建っています。途中に、明治時代に近隣の法雲院に統合されて廃寺となった**光明寺跡**が、荒れた敷地となって残っていました。**昭和 8 年 7 月 28 日**に山頭火がこの地を**“行乞”**し、句碑の先にある**犬鳴の滝**を訪れた時の短冊を、彼と親交のあった詩人和田健蔵が所有しており、その短冊の文字を彫った句碑だと説明版にありました。**“分け入れば水音”**。この句碑の先の犬鳴の滝へは更に荒れた険しい道が続いています。落差 25m程の「くの字」に流れ落ちる滝で、その名称の由縁は、飼い主が滝壺に落ちて亡くなったことを悲しんだ愛犬が、三日三晩泣き続けた後にその跡を追ったと言う故事に因んでいるとか。

山頭火句碑

光明寺跡

犬鳴の滝

(76 期　厚東一生)